

## ＜研究主題＞

学び合うことよさに気づき、学びを深める児童の育成  
～対話的な学びの場面におけるタブレットの活用～

## 1 これまでの研究の経緯

「学び合うことよさに気づき、学びを深める児童の育成」を研究主題として、各担任が研究教科を選び、研修を進めてきた。また昨年度から、GIGAスクール構想の実現に向け、一人一台端末を活用した授業づくりができるよう、研修を計画・実施し、指導力の向上を図ってきた。導入初年度にも関わらず、貪欲に学び、タブレットの利活用場面をあらゆる観点から模索することができた。さらに、校内の授業研究では、研究主題を達成するための具体的手立てのひとつとして、タブレットを活用した授業実践を行った。

昨年度の研究を通して、有効であった手立ては以下の2点である。

- ① 児童の問いを見取り、主体的な学びにつながる学習課題の設定を行うこと  
既習の知識・技能とのズレや友達との考えのズレから問題意識を生じさせたり、興味を喚起させたりして、課題を明確につかませることができた。
- ② タブレットの利活用  
個々の担任が、それぞれの学級・教科・単元等において、タブレットを有効利用できる場面を検討し、教育効果を最大限に発揮できるように、使い方を工夫していた。それにより、指導の幅が広がり、児童は新しい学びのスタイルを身に付けることができた。

また、昨年度の研究では、以下の3点の課題が明らかとなった。タブレットを用いた授業研究を行ったことで、タブレットを使うことに伴う特有の課題も見られた。

- ① 課題に正対した「まとめ」と「振り返り」のあり方  
課題に正対した「まとめ」を児童とともに作り上げる必要がある。児童の「思い」や「願い」から生まれる課題に対して、児童の学びの過程を大切に「まとめ」が作られるべきである。さらに、「振り返り」では、学びの自覚ができるように手立てを講じる必要がある。
- ② 対話的な学びの場面とコーディネート（継続）  
どのように学び合いを進めるのか、ペア・グループ・全体等での学び合う姿を具体的に想定しておくことが必要である。また、話し合う必要感をもたせたり、話し合う視点を明確にしたりしてから、ペアやグループなど学習形態を工夫しながら「学び合い」をする。その際、どのように「学び合い」を進めるか、どこに着地させるかイメージして適切に支援することが大切である。この視点については、昨年度同様に継続して研究していかなければならない。
- ③ タブレットを用いたより深い学びの実現  
タブレット黎明期特有の課題として、タブレットを利活用すること自体が目的化していたことが挙げられる。本来は、従来までの優れた教育実践に対して、ICT機器を効果的に活用することで、教育効果を最大限にあげることが目的である。どの場面において、どのように活用するのが相応しいのか、引き続き研究しなければならない。

## 2 主題設定の理由

## (1) 児童の実態

課題意識をもち、自力解決までは自信をもって取り組むが、友達との関わりの場面になると、自分の考えを相手に上手く伝えることができない児童が見られる。

## (2) 研究における課題

上記にあるように、対話的な学びの場面におけるコーディネートに課題が見られる。また、タブレットを用いたより深い学びという新しい課題も生まれ、それらに対応した主題設定が求められる。

## (3) 第3次村上市教育基本計画

第3次村上市教育基本計画での重点目標として、①「課題」と「まとめ」と「振り返り」のある授業を行う、②授業の必要な場面でのICTの活用を広げる、が掲げられている。

これらのことから、自分の考えを相手に適切に伝え、対話的な学びをすることで、友達と学び合うことの価値や学びの深まりに気付かせること（振り返り）が大切であると考え。そこで、昨年度までの研究の成果と課題を踏まえ、対話的な学びの場面において、タブレットを活用した実践を行うこととする。

### 3 目指す児童の姿

主体的・対話的で深い学び	目指す児童の姿	具体的方策・手立て
	<u>自分の考えを適切に相手に伝え、対話的な学びをする姿</u> 「私は、〇〇だと考えます。その理由は、〇〇だからです。ここまで分かりましたか？」 「タブレットのここの部分を見てください。これをこう操作すると、こうなるので、答えは〇〇です。」	①説明パターンやキーワードの提示 ②接続詞の使用 ③相手の理解の確認 ④話を聴くことができる受容的な雰囲気 ⑤聞き手の反応、リアクション、質問の指導 ⑥タブレット教材やコンテンツの準備、タブレットの使い方の工夫 ⑦学習形態（全体・グループ・ペア）の工夫 ⑧児童の考えを比べやすくする工夫
	<u>学びの価値や深まりについての気づきを振り返りとして書く姿</u> 「〇〇さんの意見を聞いて、今まで知らなかった新しい解き方を勉強できた。」 「友達に説明することで、自分の言いたいことがはっきりした。」	①振り返りを書く条件の提示 ②学びの価値や深まりを自覚化させる支援

### 4 研究内容

授業を通して、「目指す児童の姿」にせまる具体的方策・手立ての有効性を確かめる。

#### (1) 対話的な学びの場面における具体的方策・手立て

- ①・② : 説明する際の手助けとなる定型文や接続詞、キーワードを明示する。
- ③・⑤・⑦ : ペアやグループで考えをまとめたり、交流したりする手立てを講じる。
- ④ : 友達が伝えたいことを積極的に理解しようとする「聴き合う」意識をもたせる。
- ⑥ : タブレットを活用し、学び合いが深まる学習活動を設定する。
- ⑧ : 比較検討する際に、視覚的に理解しやすいよう、絵・図・式・表・グラフ等を活用させる。
- その他 : 児童の話したい、聞きたいという意欲が高まったところで学び合いを始める。  
話し合う視点を明確にしてから、学び合いを始める。

#### (2) 振り返りにおける具体的方策・手立て

- ① 分かるようになったこと、学び方のよさ等、学びの価値を実感させるために、振り返りの観点を明確にする。
- ② 学習のめあてに照らして、自らの学びの深まりを自覚化する「振り返り」をさせるために、「◎めあて」をしっかりと意識させる。

### 5 研究方法

- ・ 研究したい教科について、研究授業を行う。
- ・ 指導案の形式は「村上市授業づくりハンドブック」を基本とし、A4表裏1枚とする。
- ・ 指導案検討会は、授業者＋学年部＋研究主任で行う。
- ・ 授業者は、授業の前日までに、起案後の修正した指導案を配付する。
- ・ 協議会は、2つのグループのKJ法で行う。よさを学び合うという視点で話し合う。
- ・ 研究授業指導案と「成果と課題」を集約して、年度末に「研修のまとめ」を作成する。
- ・ 朝日地区小中連携協議会「学力向上部授業改革小部会」の活動計画による、授業改善のための研究授業交流として、他校からの参観が予定されている。

### 6 研究授業日時等一覧表

日時	学年	教科	授業者	「単元名」
〇月〇日 (〇) 〇限	〇年	〇〇	〇〇〇〇	「〇〇〇〇」